

春のワークショップ

●せつこっくクラブ4月

《自画像》100年記念「自画像とオリジナル額縁をつくろう！」(担当：安田)

開催日：2025年4月29日(火・祝) 全2回

①10:00—12:00 ②14:00—16:00

定員：各回10名(抽選)

対象：3歳～中学生(小学3年生以下は保護者同伴)

参加者数：①子ども10名、大人10名 合計20名

②子ども10名、大人9名 合計19名

のべ 39名

参加費：1人500円

(大人が途中のガイドツアーに参加する場合は観覧料320円が必要)

このワークショップでは、色々な素材を使って自画像と額縁を作りました。

最初に美術館で配布している子供向けの鑑賞ガイド「ようこそ 一宮市三岸節子記念美術館へ！」を参加者と読んで、美術館の鑑賞マナーについて学びました。



解説を聞く様子

マナーについて学んだらアイデア帳と鉛筆のついたバインダーを配布し、コレクション展(常設展)「ベスト・セレクション」を20分間鑑賞しました。こちらでは、最初に担当学芸員が、展示されている三岸節子の《自画像》に関するお話や、額縁がもつ役割、デザインについて話し、その後は自由に鑑賞しました。



アイディア帳に記入する子供たち

色々な素材を使うことから自由度の高いワークショップだったため、アイディア帳にはいいなと思う額縁のポイントを書く欄が3つと、自由にメモすることができる欄を作りました。これは、参加者の制作のイメージ作りを助ける役割や、制作中に悩んだ際に保護者や職員がアシストしやすくするため、また展示をよく観察してもらうという目的で導入しました。こちらを配布したことで、参加者のみなさんがお気に入りの作品をじっと観察する様子や、アイディア帳の内容から三岸節子作品について親子で話す場面が見られました。



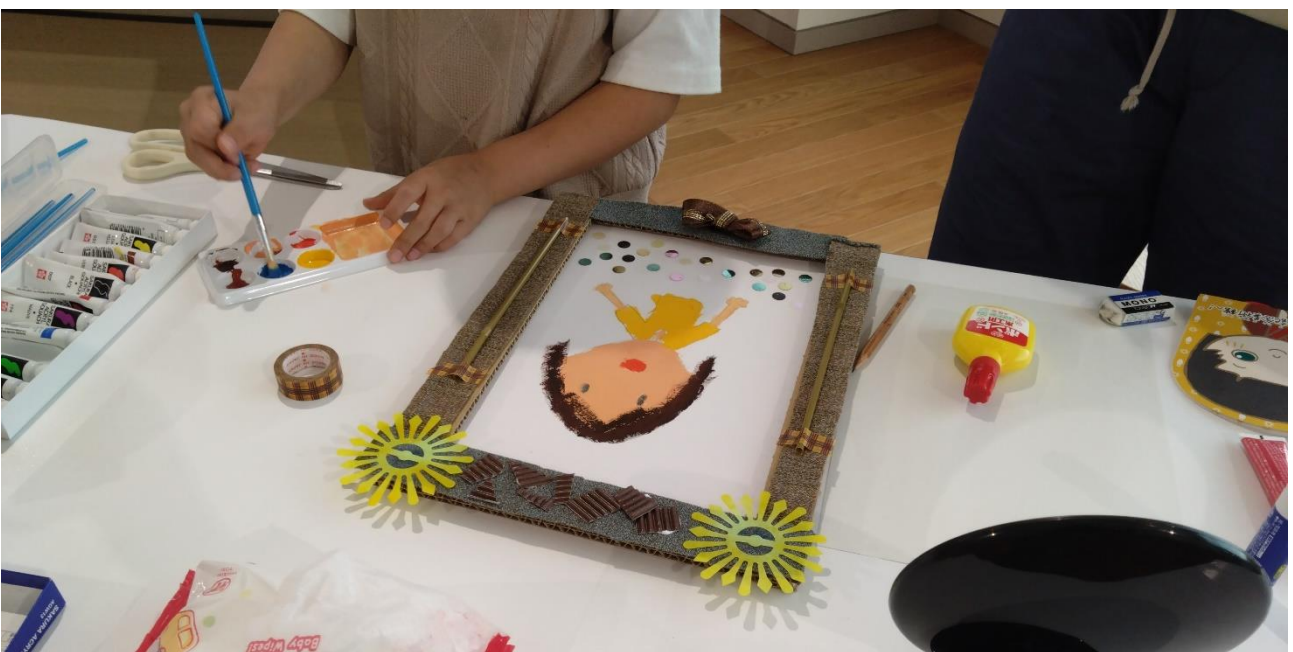
自画像の制作に入る様子

鑑賞が終わったら、実習展示室に戻り、自画像の制作をしていきました。自画像を描く画用紙は、作品の構図が決めやすいように、三岸節子の《自画像》と同じサイズのものを用意しました。机は円を描くように配置し、素材は参加者や保護者が気軽に見に行けるよう、真ん中に置きました。

最初は何をすればいいだろうと戸惑っている参加者も、素材を見に行ったり、鏡で自分の顔を観察する等しながら段々と画用紙が埋まっていきました。髪の毛を糸で作って、はさみで切りながら自分の髪形を作るなど、どの子も工夫しながら制作していました。コレクション展を鑑賞したことで、着物を描く子供や、背景に花や太陽を描く子もいました。



額縁制作の様子



完成間近の作品

自画像を描き終えたら額縁の制作に移ります。額縁は段ボールでできており、絵を取り出すことができる仕組みになっています。コレクション展で紹介した《自画像》の額縁の特徴を真似て、角に植物を配置する子供や、四角をいくつも重ねるようなデザインの額縁を作っている子もいました。



午前の部



午後の部

最後に、参加者全員の額縁を前に並べて鑑賞しました。自画像に納得がいかなかった子も、額縁をつけることで納得した様子で、全員が完成度の高い作品をつくることができましたように感じました。アンケートでは、参加者の方は「最初は上手くできるか不安だったけど、作っていく中で楽しくなりました」「もっと書きたかった」「額縁を作ることは初めてだったけど、とても楽しかった」「節子さんの作品を見てどんなところがいいかアイデア帳に書くのが楽しかった」という感想をいただきました。

保護者の方は「人それぞれの表現を感じることができて、とても刺激的でした」「本日のような子どもが美術館へ行くきっかけとなるワークショップをもっと増やしてほしい」「普段ふれた事のないような材料を使うことが出来たり、美術品を見て参考にできたりと、とても学びになりました」等の感想をいただきました。